

水稲畦畔に

センチピードグラス苗

を活用してみませんか!

水稲畦畔の現状

- ・岡山県では水田面積の約9%が畦畔です。(1haの水田に9aの畦畔)
- ・新規基盤整備畦畔では、裸地のため表土の流亡や土砂崩れが心配です。
- ・既存畦畔では、年数回に渡る草刈作業が大変です。

■ 高齢化が進み危険も増します。



5月～6月が定植最適期



新規基盤整備圃場 定植後の経過

- ・5月中旬に30cmピッチに定植。(1トレー当り約20㎡の植付可能)
- ・早く繁茂するためには肥料が必要です。(月に一度1～2kg/100㎡) 繁茂後は施肥不要。
- ・初期は雑草との競合になり、こまめな草取り作業が必要です。

■ 定植後1ヶ月(美咲町藤原)



6月



穴をあける

深植えする

■ 定植後5ヶ月(美咲町藤原)



10月

既存畦畔 定植後の経過

- ・5月下旬に15～20cmピッチに定植。(1トレー当り5～8㎡の植付可能)
- ・既存畦畔は定植前の除草が重要で、複数回の除草がおすすめです。
- ・ここまで繁茂すれば、定着後も「永続性」に優れ畦畔管理は非常に楽になります。

■ 定植後10日(赤磐市由津里)



6月

■ 定植後4ヶ月(赤磐市由津里)



10月

センチピードグラス 育成管理暦

時期	管理作業	備考
初年度	前年10～11月(宿根草等多年草の除去)	
5月～6月	除草剤散布(4月と移植4～7日前) セル苗定植(5～6月) (新規基盤整備後は30cm×30cm間隔とする。) (既存畦畔は除草後15cm～20cm間隔とする。)	・ラウンドアップハイロード50倍液(スギナがある場合25倍液) ・散布後定植しやすいように刈り払いすること。 ・苗に十分灌水しておく。深植する。 ・乾燥が続けば灌水する。
7月	施肥1 草刈1 (草刈機で5～10cm程度の高さで刈り払う。)	・化成肥料を1～2kg/100㎡程度(液肥でも可) ・日陰になると芝の生育が停滞するので雑草が30cm以上になると草刈。
8月	施肥2 草刈2 (宿根草類は随時抜き取る。)	・欠株がある場合早めに補植する。 ・乾燥が続けば灌水する。
9月	施肥3 草刈3 (出穂した穂を刈り取る。)	
11月	アントシアンが出て葉が赤くなる。 茎葉黄化(休眠)	・冬季は枯れてしまうが野焼きをすると枯死するので避ける。
2年目		
5月 7月～9月	新芽発生 必要に応じて施肥と草刈の繰り返し。 毎年出穂するので刈り払うこと。 水路等に伸びたランナーを刈ること。	・全面被覆状態になったら施肥はやめる。

JA全農おかやまではセンチピードグラスの中で生長が速く、耐寒性が強いタキイ種苗の「ティフプレア」を取り扱っています。

※植付けのポイント(40日育苗の288本のセンチピードグラスについて)

- ・水張水田には浸入しないが畑地には侵入するので、場所の選定に注意すること。
- ・植える前に除草剤による雑草退治をしっかりとすること。(特に既存畦畔)
- ・梅雨の時期に除草するので畦畔の崩壊のおそれがない法面で行う。
- ・除草した後植えやすいように草刈等で平らにすること。
- ・基盤整備後の更地では30cm×30cmのピッチで定植する。(1トレー当り20㎡の面積をカバーする。)
- ・既存畦畔では15cm～20cmのピッチで定植する。(1トレー当り5～8㎡の面積をカバーする。)
- ・効率的に植えるためにはトレーから取り出し、苗かご等に入れて植えること。(1人で1トレー1時間程度で定植できる。)
- ・植付けは「ひとつき君」などの器具を使い、根より深いサイズの穴を開け深植えをすること。
- ・植付け後たっぷり灌水すること。植付けは雨の直後か、雨の前に行うと良い。
- ・法面ではランナーは下に伸びるので、上部から順に定植し下部は除いても侵食してゆく。

※管理のポイント(一年目は通常の年よりも手間がかかる)

- ・植付け後、雨が少ない場合、適宜灌水すること。
- ・施肥は重要で生育を促進することで早めに芝の占有率が増え、雑草が生えにくくなる。
- ・出穂は毎年するので刈り払うこと。
- ・一年で多くの畦畔を管理・繁茂させることは不可能です。計画的な取り組みをお願いします。

お問い合わせは

JAまたは、JA全農おかやま 担い手推進室へ ☎086-296-5048

センチピードグラス苗の移植に関するポイント(西南暖地向け)

■ 新規基盤整備畦畔に移植する場合(裸地の畦畔)

①準備

裸地の状態であり雑草が発生していないが、移植一週間前までにラウンドアップハイロード 50 倍液で除草処理をしておく。(周辺作物へのドリフトに十分注意しておこなう。)

②移植適期

5月上旬から6月下旬の梅雨時期が適していて、雨上がりの畦畔がよく湿った状態を選んで移植する。

③移植方法

穴あけ器具(『ひとつき君』たがねに柄をつけたもの)等で、セル苗と同じ形状の仮穴を30cm間隔で開ける。植える深さについては、浅植えすると地表面近くにある成長点が露出し、ほふく茎の伸長を遅らせるため、深植えが基本となる。傾斜法面では、上部からつめて植付けを始め、下部方向へはランナーが侵植するため、少し除いてもよい。

④移植後の管理

センチピードグラスが繁茂するまで、株間に発生する雑草をこまめに抜き取る。肥料は特に必要がないが、やせ地では化成肥料を10kg~20kg/1000m²程度施用する。高温かんばつが続く場合は、状況により灌水が必要です。

■ 既存畦畔に移植する場合(雑草が繁茂している畦畔)

①準備

繁茂している雑草を、移植一週間前までにラウンドアップハイロード 50 倍液で除草処理をしておく。雑草の旺盛な畦畔では除草処理を2度行うことで移植後の雑草管理が容易になる。(高岸の法面については、除草による土砂崩れの発生がないかどうか事前検討をおこなう。また、除草の際は周辺作物へのドリフトに十分注意をほらう。)

②移植適期

同上

③移植方法

穴あけ器具(『ひとつき君』たがねに柄をつけたもの)等で、セル苗と同じ形状の仮穴を15cm間隔で開ける。(新規畦畔に比べ、雑草との競合が激しいので密植にする。)植える深さについては、浅植えすると地表面近くにある成長点が露出し、ほふく茎の伸長を遅らせるため、深植えが基本となる。傾斜法面では、上部からつめて植付けを始め、下部方向へはランナーが侵植するため、少し除いてもよい。

④移植後の管理

同上

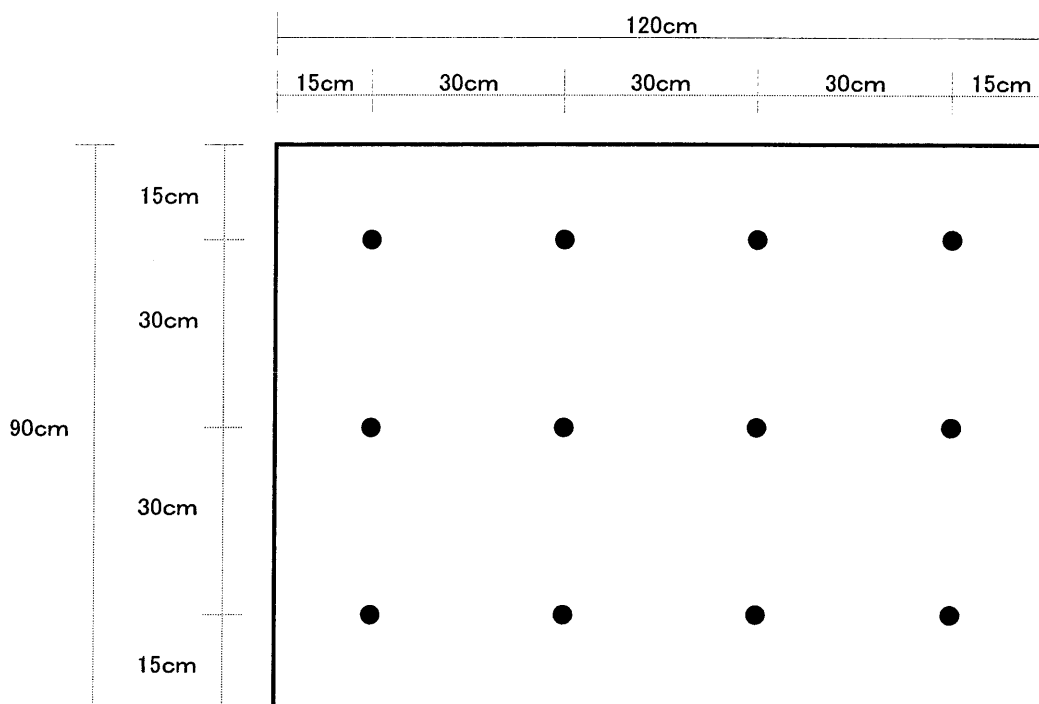
[全農岡山県本部営農・担い手対策部のホームページ](http://home.oy.zennoh.or.jp/ninaite/ninaite.html)

<http://home.oy.zennoh.or.jp/ninaite/ninaite.html>
センチピードグラスの岡山県での普及状況等が出ています。

植付け事例 (平面図)

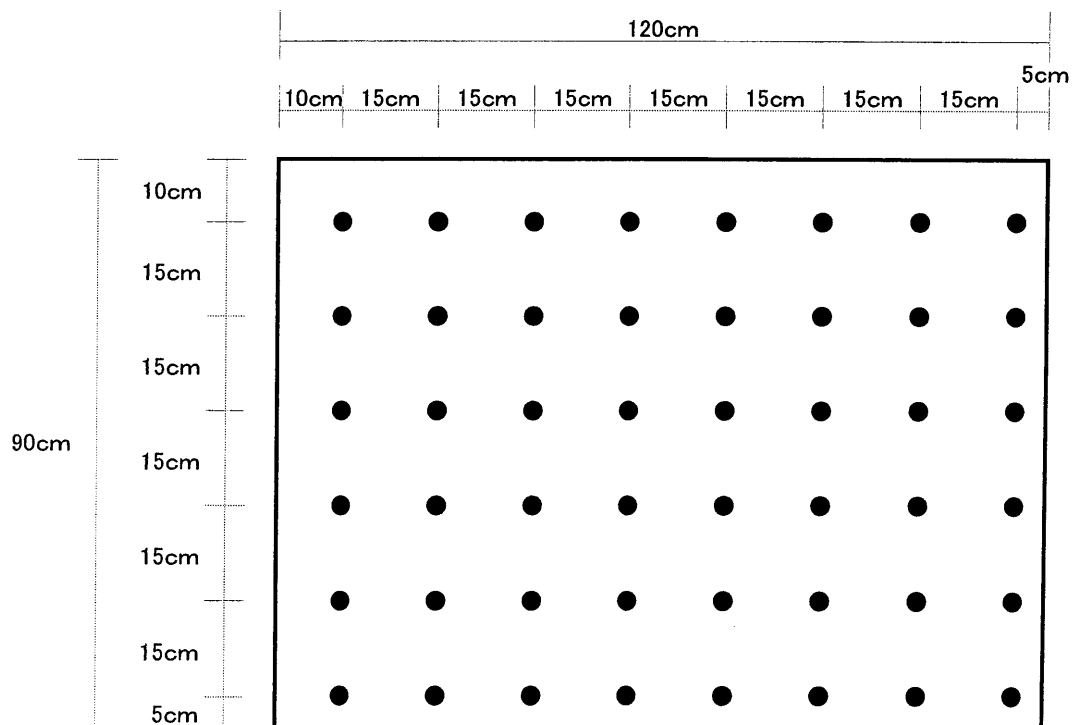
・植付け間隔30cmの場合 \cong 12苗/m²、12,000苗/10a

・288穴のトレーの場合 \cong 20m²/1トレー、48トレー/10a、(正品率90%の約250穴とする)



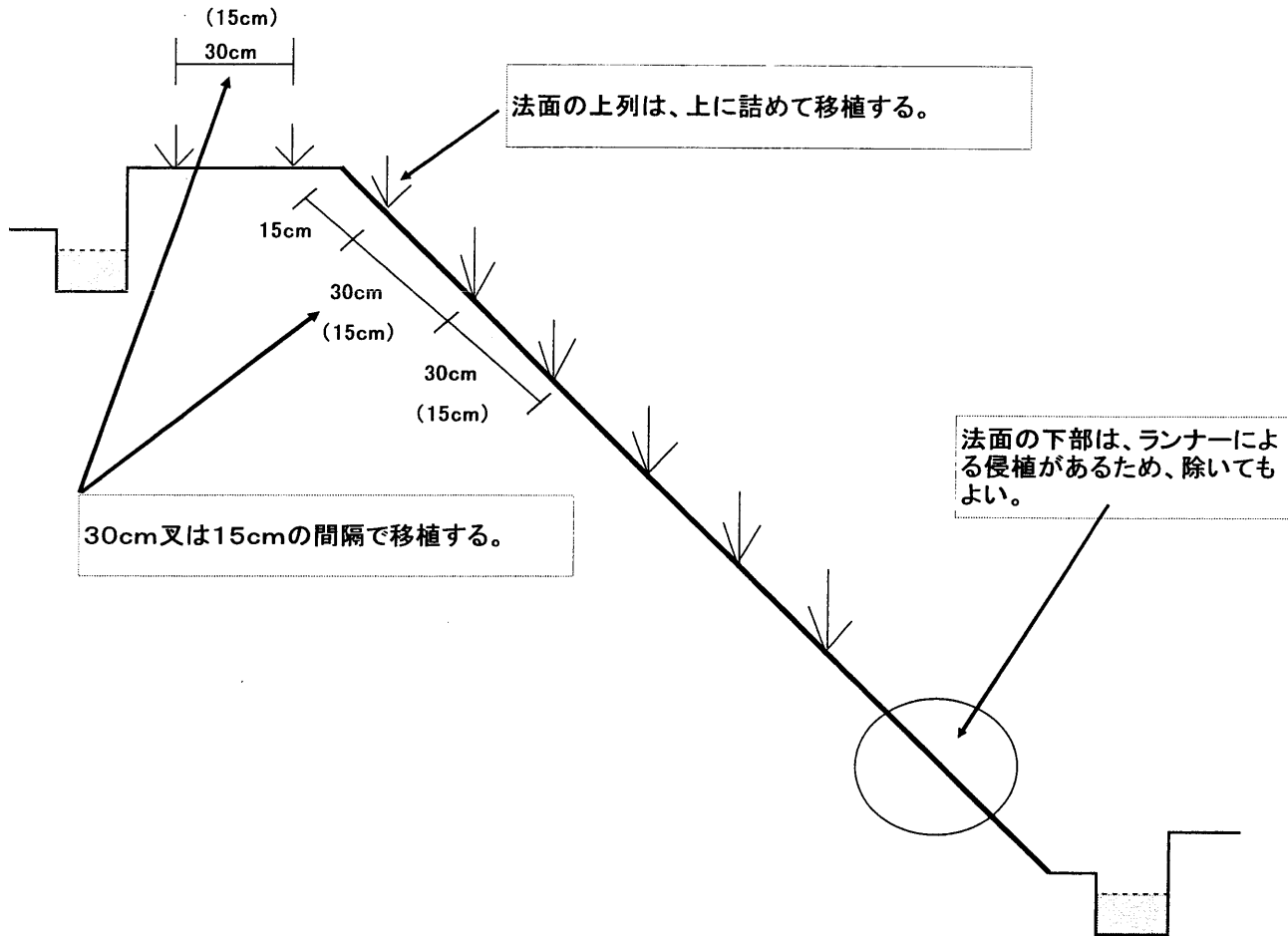
・植付け間隔15cmの場合 \cong 48苗/m²、48,000苗/10a

・288穴のトレーの場合 \cong 5m²/1トレー、192トレー/10a、(正品率90%の250穴とする)



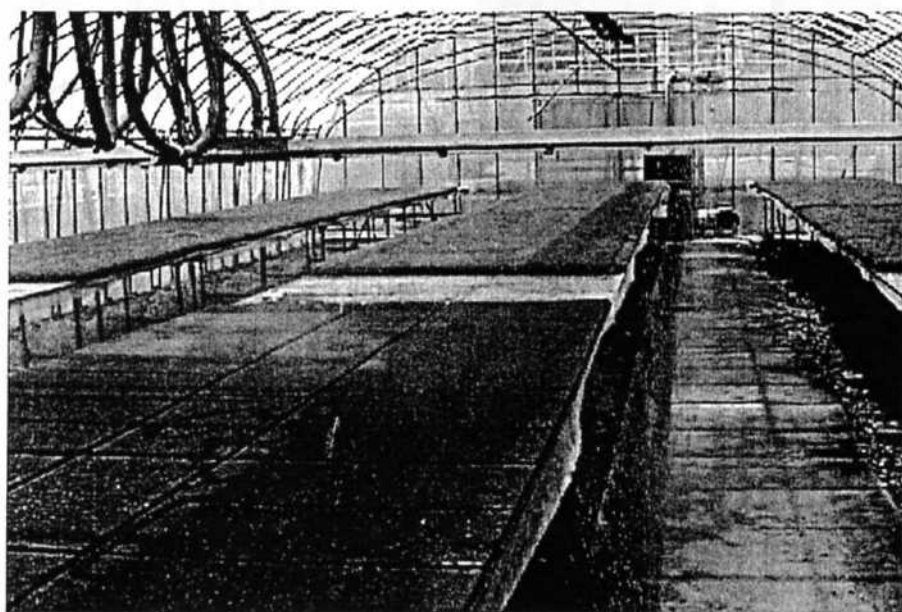
植付け事例（断面図）

植付け間隔=30cm又は15cm

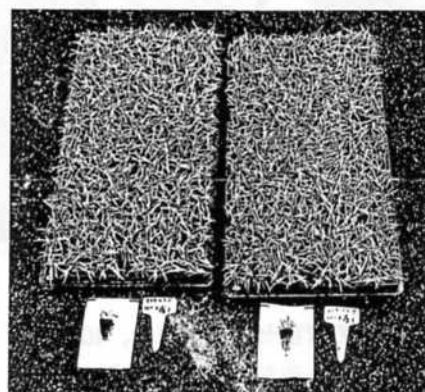


JA全農おかやま発

センチピードグラス^(ティフ・ブレア)で 水田畦畔の除草労力を軽減する



▲「JA全農おかやま津山営業所 育苗センター」におけるセンチピードグラスの育苗



▲播種40日後のセル苗

水田畦畔の除草作業は負担が大きい

岡山県は、中山間地域の水田が多く、耕地に占める畦畔の割合が大きい（耕地面積71,000ha、畦畔面積6,700ha、畦畔面積率9.4%）うえに、417の集落営農地区がある。

圃場整備による作業の効率化や農薬散布技術の向上で、本田作業の省力化

が進む一方、畦畔雑草の多くは未だに刈払機によって除草されており、農家にとっては相変わらず大きな負担になっている。

水田畦畔の除草作業は、圃場条件にもよるが、少ない場合でも3回/年、多い場合になると5回/年以上もしなければならない。

また、基盤整備後の畦畔斜面は、既

存の畦畔に比べて土質が不安定で、降雨によって土砂崩れが起きやすいので、畦畔には表土流亡の防止効果が高い植物の生育が必要となっている。

このため、JA全農おかやまでは、営農・担い手対策部を中心に一昨年からの実証事業を経て、今年からセンチピードグラス（芝草）の一品種である「ティフ・ブレア」のセル苗供給を本格化させ、普及拡大に取り組んでいる。

センチピードグラスは発芽率の高い芝草であるが、畦畔に直播する方法では、天候・土質などの条件から生育が不安定である。このため、JA全農お





▲セル苗の植付状況

かやまの育苗センターでは、40日間育苗したセル苗を供給し、農家の育苗負担の軽減を図ることをすすめている。

今年供給した苗は約4,000枚で、畦畔の面積で8ha、本田の約85ha分に対応している。

10年以上繁茂し、他植物を抑える

センチピードグラスは、布団のように分厚い芝面によって雑草を抑えこむ機能があり、センチピードが活着し被覆すれば、10年以上にわたりそのまま繁茂し、他植物の発生を抑制するため、年1回程度の草刈り作業で畦畔管理ができる。

センチピードグラスの1品種である「ティフ・ブレア」の主な特徴はつぎのとおり（メーカー資料による）。

- ①草丈は10～15cm。普通種よりも、ほふく茎の伸びが速く、密生度が高い。
- ②耐寒性が強く、マイナス23.5℃の低温まで耐える（普通種はマイナス10℃程度でも越冬できない）。
- ③根が太く伸び、畦畔や法面の土壌をしっかりと保持する。
- ④永続性にすぐれ、定着後10年以上もほとんど草刈りを必要としない。
- ⑤土壌の適応性が大きく、土壌pH4.2～8.5で生育は良好。

このセンチピードグラスの普及推進の主目的は、畦畔除草の労力軽減をき

っかけに、地域ぐるみで作業受委託や農地の担い手への利用集積拡大を進めることにある。

高齢化や過疎化の進行が著しい中山間地では、耕作放棄地対策として集落営農の組織化・法人化や担い手への土地利用集積が進められているが、担い手が農地の賃貸借や用排水および畦畔管理を含めた全作業を受託する場合に、畦畔の維持・管理作業が付随することが負担になっているからである。

農家ニーズを汲み取ることが原点

今回の取り組みについて、JA全農おかやま営農・担い手対策部の岡部長は「農家へ出向いて話をして、農家ニーズを汲み取ることが活動の原点でした」と話す。また、柏内課長も「センチピードグラス苗供給事業は、直接事業分量の拡大に結びつくものではないが、確実に担い手農家の感動を呼び、つぎのステップへのつながりを巻き起



▲平田工区営農組合長・常浦鏡さんの圃場（真庭市中津井）

こします」と、単なる除草対策に留まらない取り組みであることを強調する。

地域農家の期待は大きい

●JAびほく管内の真庭市中津井（旧北房町）の平田工区営農組合からの声
「畦畔まで田植えをさせるのかと営農組合みんなから批判された」「導入当初は雑草抑制と崩落防止の效果に半信半疑、JA全農おかやまの熱心な指導を頼みに挑戦してみた」「定着するまでの草取り作業もあり、うまくいくか心配であったが、今は実際の效果にみんなが喜んでいる」「景観美を競う農家もあり、話のタネと意欲が生まれ、つづけて拡大していきたい」

●JAつやま管内の堀坂営農組合からの声

「管内は40haの水田があり4ha程度の畦畔がある。3ヵ年計画で全面普及に取り組む。センチピードグラスは夏



▲植付1年目の畦畔斜面（津山市・堀坂地区基盤整備畦畔）

場の草刈り作業の省力化と畦畔崩落防止対策に有効であり、圃場整備直後の畦畔に導入し効果が実感できた。新聞に優良事例が掲載されても、実際にはなかなか取り組めないが、JA全農おかやまが頻りに訪問し熱心に指導してくれたから本気で取り組んでいる。全面経営受託にも弾みがつく。今後の農業は、新しいことに挑戦することが大切だ。さらなる提案を期待している」

「JAグループに親しみがもてるようになった」「全農が近くになった」と歓迎する農家の声からも、水稲畦畔の除草労力軽減対策として、センチピードグラスの普及推進の取り組みが支持されている。

【全農 営農総合対策部
担い手対応室・魚住広和】